



東京の9つのまちづくり活動では、それぞれのエリアごとに新しい取り組みにチャレンジしています。今回はその中の4つのまちづくり活動からトピックスを紹介します。

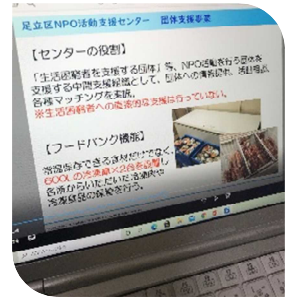


足立区まちづくり

食の支援・情報と物資の流れを学びました

コロナ禍で生活に困窮する方への対応として、足立区ではどのような食の支援が行われ、どのような連携ができてきているのかを知り、新たに生協と行政のつながりをつくるために、足立区協働・協創推進課区民協働推進係長の河井さん、足立区NPO活動支援センター長の黒沢さんを講師に迎え、オンラインで学習会を開催しました。

パルシステム東京のお米の支援が、夏休み中の食の支援事業にどのように活用されたのか、また足立区とNPO活動支援センターが連携して、地域支援活動をどのようにおこなっているのかなどを詳しく伺いました。あわせて、支援品を提供したい場合は区へ連絡を、支援活動のために食料品等の提供を受けたい場合はNPO活動支援センターに団体登録するとよいとお話もあり、これからの支援活動について、活発に意見交換をおこないました。



コープみらい・パルシステム東京・東都生協・東京ほくと医療生協・東京ふれあい医療生協



目黒区まちづくり

まちづくりの新しい形にチャレンジ

参加する生協が2つになったため、2020年度から定例会をお休みしています。お休みの間も情報共有を定期的に行うなどして、つながっていた目黒区社会福祉協議会と、久しぶりに話し合う場を持つことができました。

今後はそれぞれの活動を知るために、東都生協とフードバンク目黒との連携や、目黒区社会福祉協議会が取り組むCSW※など、地域に密着して実践されている取り組みを共有することから始めます。そこから一歩ずつ、目黒区での生協や社会福祉協議会のつながりと連携した取り組みを探り、まちづくり活動の再構築を目指していきます。

※CSW:コミュニティ・ソーシャルワーカー。地域で支援を必要とする人への援助、援助困っている人をつないだり、公的制度とつないだり、新たなサービスの開発などを行う人です。



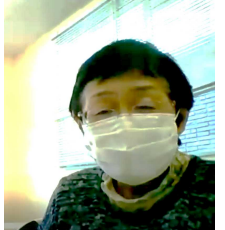
練馬区まちづくり

「あったかフードバンク大泉」を立ち上げた東京保健生協理事さんにお話を伺いました

東京保健生協で取り組んでいる「あったかフードバンク大泉」には、まちづくり定例会での呼びかけから、食材の提供や広報など、各組織や個人としての協力につながっています。

10月の定例会では、まちづくりメンバーの声に答えて、立ち上げに関わった香取さんから、取り組もうと思った理由や立ち上げのきっかけ、取り組みの流れ、大切にしていることなどについてお話を伺いました。

今後は、各生協の生活困窮者支援について順番に報告し合い、練馬地域での活動状況を共有し互いの取り組みに活かします。



コープみらい・パルシステム東京・東都生協・生活クラブ生協・東京保健生協・すずしろ医療生協

香取三恵子さん
(東京保健生協理事)



東久留米市まちづくり

会えない、集まらない中での組合員活動を活発にするためのミニ学習会を開催しました

コロナ禍での組合員活動の活動状況について、オンライン企画の開催方法や広報の工夫(紙媒体)など、それぞれの情報を持ち寄り交流しています。そんな中、オンラインでのつながりを推進している生協の取り組みが話題になり、メンバーから「オンラインを活用したいので具体的なすすめ方について知りたい。」という声があがりました。そこで、いち早く昨年8月に「みんなのスマホ教室(全4回)」を開催している東京ほくと医療生協の渡邊さんと小林さんに、開催経過やオンラインの苦手意識を軽減させる工夫、スマホ教室開催の留意点など、実践的な運営側としてのお話を伺うことができました。



左:渡邊絵里さん(東京ほくと医療生協職員)
右:小林京子さん(同法人:赤羽東支部支部長)

現在公式LINEを配信中! 組合員さんに楽しくLINEに慣れてもらっています。

《東京ほくと医療生協「みんなのスマホ教室」実施の主なポイント》

- ◆ どの世代でも使用している「LINE」に絞り、使い方教室を開催
- ◆ 講師は、地域で日頃からLINEで情報発信している方に依頼
- ◆ LINEを理解しているサポーターと一緒に考えながらすすめるやり方
- ◆ 参加者同士のグループLINEを作り、そこにスタンプや写真の投稿などとにかく実践を中心に練習
- ◆ LINE通話の方法や二次元バーコードの読み込みができると、オンライン講座に参加しやすくなる

コープみらい・パルシステム東京・東都生協・西都保健生協